

第8回 厚生労働省ICFシンポジウム

ICD-11とICF利活用の新たなステージを展望する
～かつてない超高齢社会を迎える日本の挑戦～



講演資料

2020年1月18日[土] 13:00～16:30

イイノホール（東京都千代田区内幸町2-1-1）

主催：厚生労働省／協賛：一般財団法人 厚生労働統計協会

ICF

ICF＝国際生活機能分類
International Classification of Functioning, Disability and Health (WHO)
ICFは、WHO-FIC（世界保健機関国際統計分類）
における中心分類の一つです





目 次

●基調講演	1
ICD-11とICFの利活用の新たなステージを展望する～ICD-11の改訂に参画して～	
加藤 真介（徳島大学病院リハビリテーション部教授）	
●講演①	12
ICFコンセプトに基づく生活機能評価システムの作成と検証－ICD-11第V章の臨床活用に向けた取り組み	
向野 雅彦（藤田医科大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座准教授）	
●講演②	20
ICFのアップデートと今後の展望－WHO-FIC動向と日本での活用に向けて	
山田 深（杏林大学医学部リハビリテーション科准教授）	
●講演③	28
ICFコンセプトを活用した既存情報整理の考え方と実際－ICF-WG・リコード班の活動報告を中心に	
大冢賀 政昭（国立保健医療科学院主任研究官）	

ICD-11 とICF の利用の新たなステージを展望する -ICD-11 の開発に参画して-



徳島大学病院リハビリテーション部
日本整形外科学会ICD委員会

加藤真介

第8回厚生労働省ICFシンポジウム
令和2年1月18日

国際身体障害者スポーツ競技会 東京パラリンピック大会

PARALYMPICは、PARAPLEGIAのパラと、オリンピック OLYMPICのリンピックを組合わせて、パラリンピックと綴ったものである。このパラリンピックということばは、日本で初めてうち出された愛称である。

パラリンピック大会とオリンピック大会との間には、直接的な関係はないが、1956年、オリンピック運動について功績があった場合に贈られるフェアプレーカップが、国際オリンピック委員会からこの運動に与えられた。この意義は、国際オリンピック委員会がこの団体を、同じ道を進む団体として認めたことである。

国際身体障害者スポーツ競技会
東京パラリンピック大会 報告書



The National Stoke Mandeville Games

-失われたものを数えるな、残っているものを最大限に活かせ-



中村裕先生 (1927年 - 1984年)

- ・ 大分県身体障害者体育大会 (1961年～)、東京パラリンピック開催に尽力
- ・ 社会福祉法人「太陽の家」創設
- ・ 大分国際車いすマラソン大会開催 (1961年～)

日脊障医誌 2015; 28: 22-28

脊髄損傷による問題

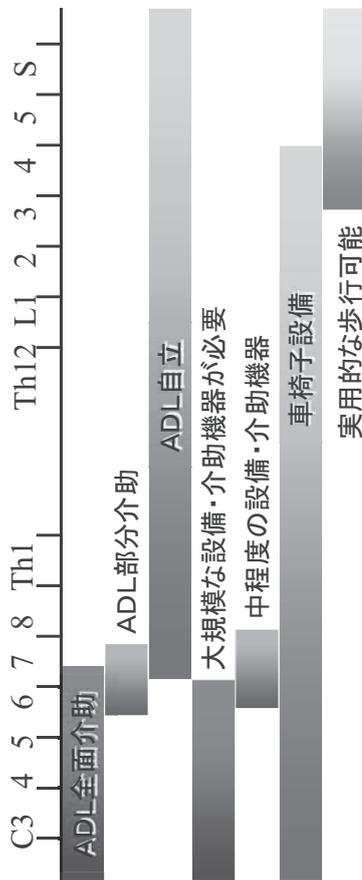
- ✓ 脊柱
- ✓ 脊髄
- ✓ 運動障害
- ✓ 知覚障害
- ✓ 多臓器の機能障害
- ✓ 様々な合併症 (回避可能)
- ✓ 多面的な能力障害

包括的治療

- 脊髄損傷は多臓器障害である
- 合併症の発生は、機能的を悪化させ、神経学的予後を悪化させる可能性がある
- 全ての問題を認識して、各場面の治療を行う

神経学的高位と予想されるADL、必要な設備

完全麻痺の場合

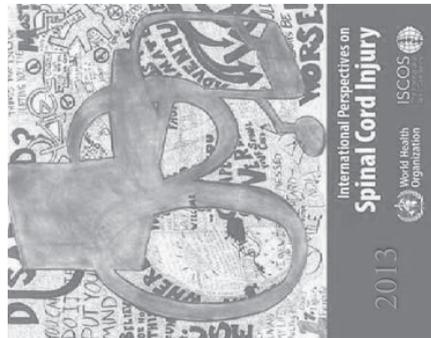


International Perspectives on Spinal Cord Injury

WHOとしては初めての特定の疾患についての world report

脊髄損傷は、ヘルスケアシステムのほぼ全ての面に関わっている。脊髄損傷者が快適に過ごせる社会は、必然的に障がい者全体に対してもより寛容となる

Dr. Margaret Chan, Director-General



- 予防可能
- 健康な生活をおくり、社会に参加することが可能
- 適切な医療、リハビリテーション
- 継続した支援
- 寛容な社会

障がい(者)に対する予防・治療・福祉が適切に行われる社会を目指す良い指標

http://www.who.int/disabilities/policies/spinal_cord_injury/en/

ICF core sets

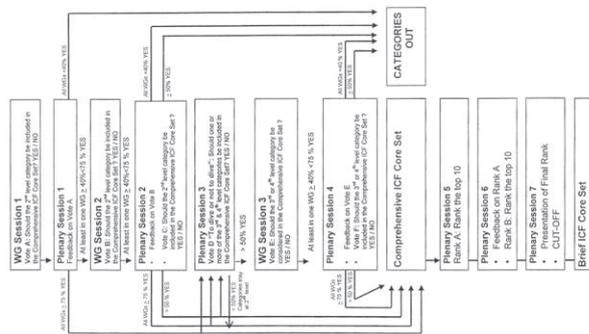
- Subcategories:
- Musculoskeletal Conditions (Files: 16)
- Neurological Conditions (Files: 19)
- Mental Health (Files: 5)
- Other Health Conditions (Files: 10)
- Diverse Situations (Files: 4)
- Cardiovascular and Respiratory Conditions (Files: 11)
- Cancer (Files: 3)

ICF Generic Set

ICF Rehabilitation Set

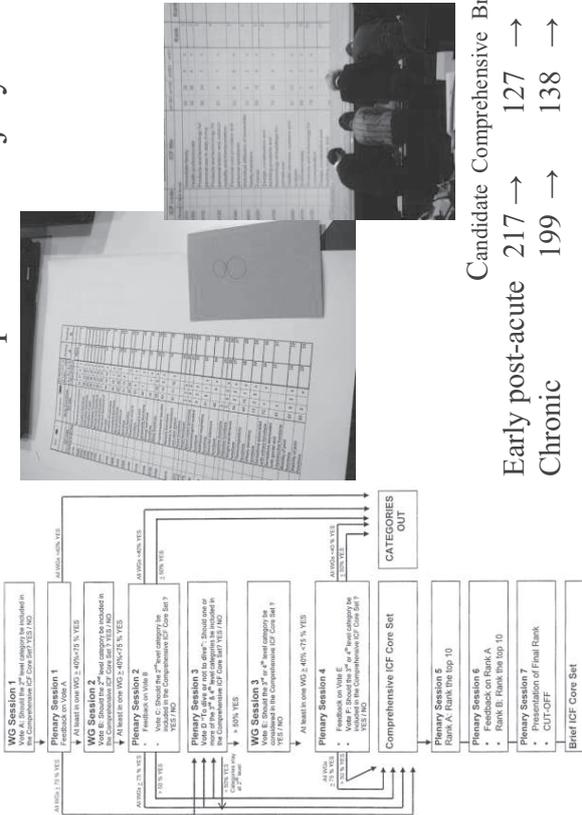
ICF Core Sets for Spinal Cord Injury

Voting Process



ICF consensus conference on spinal cord injury

ICF Core Sets for Spinal Cord Injury
Voting Process



世界保健機関 (WHO)

□ 世界保健機関憲章

第64条 各加盟国は、保健総会が決定した方法によって、統計的及び疫学的報告を提出しなければならない。

□ 世界保健機関分類規則

第2条 死亡及び疾病作成する各加盟国は、世界保健総会がその都度採択する国際疾病、傷害及び死因統計分類の現行の改訂に基づいて、これを行うものとする。この分類は、引用に際しては、国際疾病分類と称することができる。

第3条 死亡及び疾病統計の作成公表にあたっては、各加盟国は、分類、符号処理、年齢区分、地域区分、その他の関連した定義及び基準について、世界保健総会が作成した勧告に、できる限り従わなければならない。

第6条 各加盟国は、本機関より依頼された場合、憲章第64条の規定に基づき、この規則に従って作成された統計及び憲章第63条の規定により通報されない統計を提出しなければならない。

世界保健機関国際分類ファミリー

World Health Organization Family of International Classifications (WHO-FIC)



(出處：WHOウェブサイトより、国際分類情報管理室で翻訳)

ICD (国際疾病分類)

International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems

疾病及び関連保健問題の国際統計分類

○ WHO (世界保健機関) の勧告により、国際的に統一した基準で定められた死因及び疾病の分類。現行のICD-10は約14,000項目より構成。

○ 1900年に初めて国際会議で承認。日本も同年より導入。以降、WHOにおいて約10年ごとに改訂が行われ、ICD-10は1990年にWHO総会において承認され、日本では1995年より適用。

○ 日本では、ICDに準拠して「疾病、傷害及び死因の統計分類」を統計法に基づく統計基準として定めており、

・公的統計 (人口動態統計、患者調査、社会医療診療行為別統計等)

・医療機関における診療録の管理等における死因・疾病分類として広く利用。

ICD改訂の歴史

ICD版	分類項目数(細項目)	国内適用期間(告示改正)
第1 1900年(明治33年)	179(-)	明治32年～明治41年
第2 1909年(明治42年)	189(-)	明治42年～大正11年
第3 1920年(大正9年)	205(-)	大正12年～昭和7年
第4 1929年(昭和4年)	200(-)	昭和8年～昭和20年
第5 1938年(昭和13年)	200(-)	昭和21年～昭和24年
第6 1948年(昭和23年)	953(-)	昭和25年～昭和32年
第7 1955年(昭和30年)	953(-)	昭和33年～昭和42年
第8 1965年(昭和40年)	1,040(3,489)	昭和43年～昭和53年
第9 1975年(昭和50年)	1,179(7,130)	昭和54年～平成6年
第10 1990年(平成2年)	2,036(14,195)	平成7年～平成17年
2003年(平成15年)	2,045(14,258)	平成18年～平成27年
2013年(平成25年)	2,053(14,609)	平成28年～
第11 2019年(令和元年)		

ICD-11の特徴

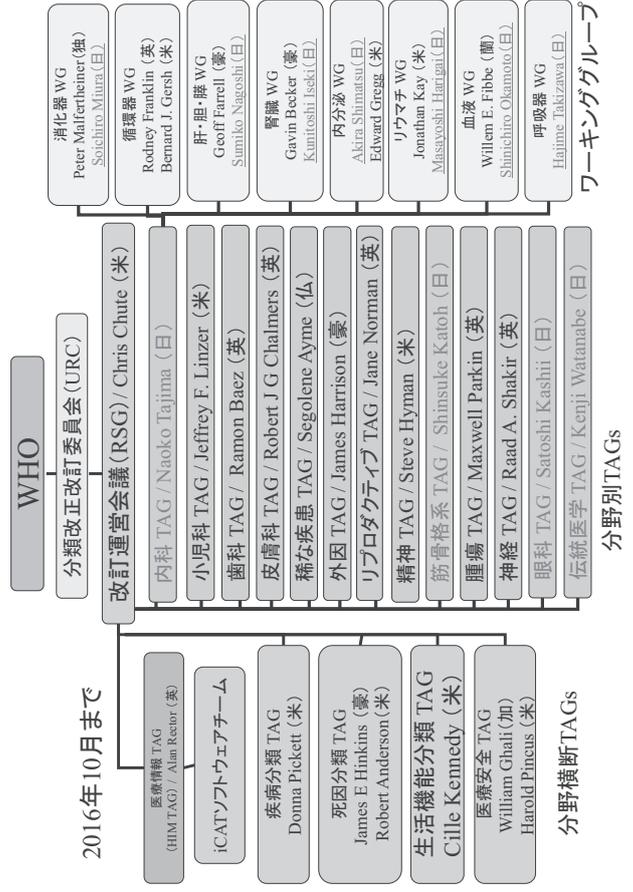
- 日進月歩の基礎医学・臨床医学・公衆衛生の分野における新しい知見を導入 → 医学の専門家(臨床家)を中心とした検討
- 複数の使用目的を想定、柔軟なコーディング
 - 疾病・死亡統計、プライマリケア、臨床、研究 等
 - エクステンションコード 等
- 伝統医学を新たに導入 → まずは日中韓の伝統医学(漢方医学)
- 電子環境での活用を前提としたシステム
 - ウェブサイトを介した分類提供、コーディング・ツール等の開発 等
- 病名コードだけでなく、内容(疾患概念)を含めた情報体系へと進化
 - 分類項目にかかる説明、病名(索引用語)を追加
(将来的には内容:症状所見の解剖学的/組織病理学的/遺伝学的etc.)

15

ICD-11開発の経緯

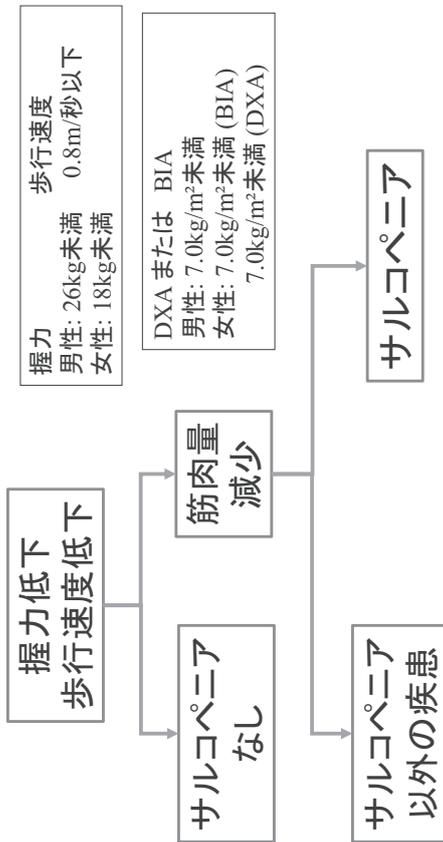
- 2007年 ICD-11改訂作業開始をプレス発表(東京)
WHOの改訂組織において、専門分野別部会等の共同議長をはじめ多くの日本の医学の専門家・団体が貢献
- 2016年 WHO世界保健総会(WHA)へ経過報告
10月 ICD-11改訂会議(東京)
加盟国レビューの実施
- 2017年 日本医学会、日本歯科医学会、ICD専門委員会、日本WHO国際統計分類協力センター等からの意見をとりまとめ、WHOへ提出
- 2018年 6月 ICD-11 version for Implementation公表
- 2019年 5月 WHO世界保健総会(WHA)にて採択
- 2022年 ICD-11発効(予定)

ICD-11改訂に向けた検討組織



サルコペニア

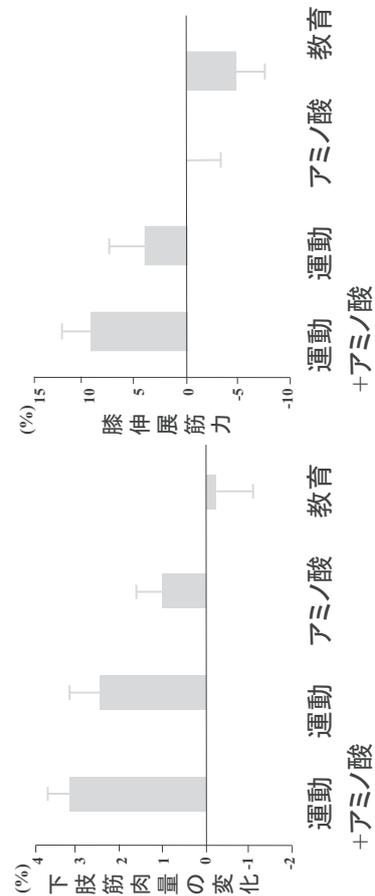
高齢期にみられる骨格筋量の減少と筋力
もしくは身体機能(歩行速度など)の低下



アジアサルコペニアワーキンググループ(AWGS)による診断基準

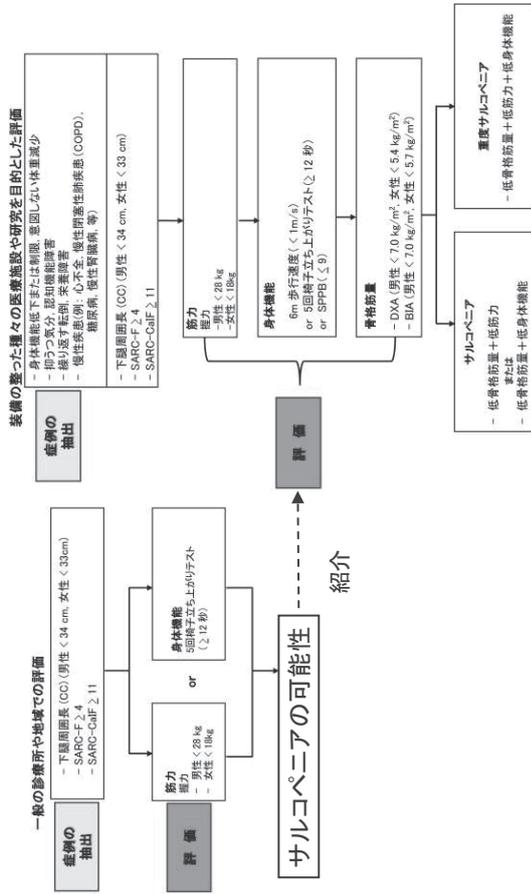
サルコペニア対策

75才以上でサルコペニアと診断された女性155名
運動 60分x2/週 アミノ酸サプリ2/日 健康講座 1/月 3ヶ月間



Kim HK, Suzuki T, et al.: J Am Geriatr Soc. 2012; 60: 16-23

サルコペニア診断基準の改訂 (Asian Working Group for Sarcopenia 2019)



Chen LK, et al. J Am Med Dir Assoc, in press http://jssf.umin.jp/pdf/revision_20191111.pdf

ロコモーションチェック



ロコモパンフレット2010年度版 (日本整形外科学会より)

ICD-11 筋骨格系専門部会の活動 3

Musculoskeletal Topic Advisory Group (MSK-TAG)

- 2009年 9月 筋骨格系専門部会第2回対面会議
- 2010年11月 筋骨格系専門部会第3回対面会議
- 2011年 1月 筋骨格系専門部会第4回対面会議

(英国・ロンドン)

2013年 9月 MSK-TAG chairに加藤が就任

2014年10月 運動器の10年 国際運営委員会との合同会議

(英国・ロンドン)



ICD-11 筋骨格系専門部会の活動 4

Musculoskeletal Topic Advisory Group (MSK-TAG)

2014年10月

ICD-11 β版の修正意見を提出し、日整会ICD-11検討委員会による改定作業は終了

本版には日整会案が強く反映される結果となる

- 1) 悪性骨・軟部腫瘍の集約
- 2) 脊椎疾患の系統的な配置
- 3) 詳細な部位コード採用など

2017年以降

ICD-11検討委員会はICD委員会に名称変更し、ICD-11の国内導入に向けた取り組み(和訳、統計システムの構築など)を行う

筋骨格系専門部会 (MSK-TAG)から要望事項

死因統計から発展してきたICDに機能・診断過程を反映させる

- 診療の過程の反映・複数コードの許可
 - 坐骨神経痛・間欠跛行患者
 - 受診時「坐骨神経痛・間欠跛行」
 - 単純X線「変形性脊椎症」
 - MRI「腰部脊柱管狭窄症」
- 詳細な部位の容易な記載
 - ICD10では、部位がかわるだけ別のコード
- 重症度(≠機能)の反映
- 筋骨格系腫瘍の系統的配列

ICD-11

■ 分類の場所

<https://icd.who.int/>



固定版 <https://icd.who.int/browse11/l-m/en>

Learn More

Use ICD-11

Big Download

日々更新版 <https://icd.who.int/dev11/l-m/en>

推

■ 世界保健総会関係文書の場合

事務局長報告 (A72/29) : https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf_files/WHA72/A72_29-en.pdf
決議 (A72/29 Add.1) : https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf_files/WHA72/A72_29Add1-en.pdf

ICD-11の特徴

- ▶ 日進月歩の基礎医学・臨床医学・公衆衛生の分野における新しい知見を導入 → 医学の専門家(臨床家)を中心とした検討
- ▶ 複数の使用目的を想定、柔軟なコーディング
 - 疾病・死亡統計、プライマリケア、臨床、研究 等
 - エクステンションコード 等
- ▶ 伝統医学を新たに導入 → まずは日中韓の伝統医学(漢方医学)
- ▶ 電子環境での活用を前提としたシステム
 - ウェブサイトを介した分類提供、コーディング・ツール等の開発 等
- ▶ 病名コードだけでなく、内容(疾患概念)を含めた情報体系へと進化
 - 分類項目にかかる説明、病名(索引用語)を追加
(将来的には内容:症状所見の解剖学的/組織病理学的/遺伝学的etc.)

ICD-11 死亡・疾病統計用分類の構成 1

<https://icd.who.int/>

ICD-10

- 第1章 感染症及び寄生虫症
- 第2章 新生物
- 第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
- 第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患
- 第5章 精神及び行動の障害
- 第6章 神経系の疾患
- 第7章 眼及び付属器の疾患
- 第8章 耳及び乳様突起の疾患
- 第9章 循環器系の疾患
- 第10章 呼吸器系の疾患
- 第11章 消化器系の疾患
- 第12章 皮膚及び皮下組織の疾患
- 第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患
- 第14章 腎尿路生殖器系の疾患

ICD-11

- 第1章 感染症又は寄生虫症
- 第2章 新生物
- 第3章 血液又は造血器の疾患
- 第4章 免疫系の疾患
- 第5章 内分泌、栄養又は代謝疾患
- 第6章 精神、行動又は神経発達障害
- 第7章 睡眠・覚醒障害
- 第8章 神経系の疾患
- 第9章 視覚系の疾患
- 第10章 耳又は乳様突起の疾患
- 第11章 循環器系の疾患
- 第12章 呼吸器系の疾患
- 第13章 消化器系の疾患
- 第14章 皮膚の疾患
- 第15章 筋骨格系又は結合組織の疾患
- 第16章 腎尿路生殖器系の疾患
- 第17章 性保健健康関連の病態

2019年5月現在

ICD-11 死亡・疾病統計用分類の構成 2

<https://icd.who.int/>

ICD-10

- 第15章 妊娠、分娩及び産褥
- 第16章 産褥に発生した病態
- 第17章 先天奇形、変形及び染色体異常
- 第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
- 第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響
- 第20章 傷病及び死亡の外因
- 第21章 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用
- 第22章 特殊目的用コード

ICD-11

- 第18章 妊娠、分娩又は産褥
- 第19章 産褥に発生した病態
- 第20章 発達異常
- 第21章 症状、徴候又は臨床所見、他に分類されないもの
- 第22章 損傷、中毒又はその他の外因の影響
- 第23章 傷病又は死亡の外因
- 第24章 健康状態に影響を及ぼす要因又は保健サービスの利用
- 第25章 特殊目的用コード
- 第26章 補助チャプター 伝統医学の病態・モジュール
- 第V章 生活機能評価に関する補助セクション
- 第X章 エクステンションコード

2019年5月現在

16

ICD-10からICD-11へ章の新設: extension code

X章 エクステンションコード	主な内容	
重症度値	Severity Scale Value	重症度、ステージ
時間軸	Temporality	無症候性～再発性、続発性の別;急性・慢性の別
病因	Aetiology	感染病原菌
局所スケール	Topology Scale Value	左右の別、広汎性・限局性の別
解剖学的詳細	Specific Anatomic Detail	部位
組織病理	Histopathology	新生物におけるより詳細な組織的分類
損傷の状況	Dimensions of injury	火傷や骨折の範囲・種類
外因の状況	Dimensions of external causes	不慮・故意の別、発生場所
意識レベル	Consciousness	グラスゴー・コマ・スケール(GCS)によるスコア
物質	Substances	各種化学物質、薬剤
診断の状況	Diagnosis code descriptors	受診又は入院の理由、医療資源病態、入院後発症
背景状況	Capacity or context	周産期死亡での使用を想定

※(ICD-11 MMS (2018/6/18), 仮訳)

ICD-10からICD-11へ 分類項目の内容充実

死亡・疾病統計用分類 (ICD-11 MMS: Mortality and Morbidity Statistics)

CA00 Acute nasopharyngitis

① 分類名

③ 解説文

④ 追加情報

⑤ 除外用語

② 索引用語

ICD-10からICD-11へ (章の新設:生活機能評価に関する補助セクション)

ICD-11

第V章 生活機能評価に関する補助セクション

— WHODAS 2.0 36項目版

- 認知
 - 運動・移動
 - セルフケア (WHODAS関連項目)
 - 他者との交流
 - 日常生活
 - 社会参加及び健康問題の影響
- ※ICD-11 MMS (2018/6/18), 仮訳
- 基本的機能の領域
 - 声と発話の機能
 - 心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能
 - 消化器系・代謝系・内分泌系の機能
 - 尿路・性・生殖の機能
 - 神経筋骨格と運動に関連する機能
 - 皮膚及び関連する構造の機能
 - 一般的な課題と要求
 - 運動・移動
 - セルフケア
 - 家庭生活
 - 対人関係
 - 学習と知識の応用
 - コミュニケーション
 - 主要な生活領域
 - コミュニティライフ・社会生活・市民生活
 - 精神機能
 - 感覚機能と痛み

WHODAS 障害評価面接基準 WHO disability assessment schedule

- ✓ WHOが開発した包括的な評価票
- ✓ 文化を超え、健康および障害を評価するために標準化
- ✓ 特定の介入をすることで生じる前後の相違を測定するために、信頼性と感受性が十分確認された、国際生活機能分類(ICF)の包括的な項目の1つ
- ✓ 同じ人を介入の前後で評価
- ✓ 母集団の健康と障害のレベルの評価、および臨床における介入の効果と効率性の上昇の測定が可能

WHODAS 障害評価面接基準 WHO disability assessment schedule

- ・領域1: 認知-理解と繋がりが
- ・領域2: 可動性-動きまわること
- ・領域3: セルフケア-排尿排便、着衣、摂食、一人で行っていること
- ・領域4: 他者との交流-人と仲良くすること
- ・領域5: 日常生活-家庭の責任、レジャー、仕事および学校
- ・領域6: 社会への参加-地域社会活動に加わり、社会に参加すること

World Health Organization
Measuring Health and Disability
Manual for WHO Disability Assessment Schedule

健康および障害の評価
WHO障害評価面接基準マニュアル

WHODAS 2.0

田嶋美奈子、山口啓生、中嶋次文 著

World Health Organization
Measuring Health and Disability
Manual for WHO Disability Assessment Schedule

健康および障害の評価
WHO障害評価面接基準マニュアル

WHODAS 2.0

田嶋美奈子、山口啓生、中嶋次文 著

WHODAS 障害評価面接基準 WHO disability assessment schedule

	背景	対象者	測定される健康概念 (領域)	項目	実施者	実施時間
WHO DAS 2.0	WHOによって開発。ICF に基づく診断に関わら ず、活動制限と参加制 約を評価	臨床 地域社会 一般集団	認知/可動性/セルフケア /他者との交流/日常活 動/社会への参加	36	自己 /面接	5-10分 /20分
SF 36	医療アウトカム調査用/ 医療従事者、患者および ヘルスマンagementによ るケアの結果に対する 影響を調べる調査	臨床 地域社会 一般集団	身体機能/身体問題によ る役割制限/肉体的苦痛 /一般的な健康認識/バイ タリティ/社会的機能/情 緒障害による役割制限/ 精神保健/健康の推移	36	自己 /面接	10分 /10分
FIM	基本的日常活動を行う ために、障害を持つ人 に必要な支援量を評価	臨床母集 団のみ	セルフケア/排泄コン ロール/移乗/移動/意思 疎通/社会的認知	18	面接	30分
Barthel Index	日常生活における可動 性とセルフケア活動を 評価	臨床母集 団のみ	排便/排尿/整容/トイレの 使用/棋食/移乗/階段・ 移動/着衣/階段/入浴	5-10	面接	2-5分

健康および障害の評価- WHO 障害評価面接基準マニュアル WHODAS 2.0 (2015)より

ICD-11の特徴

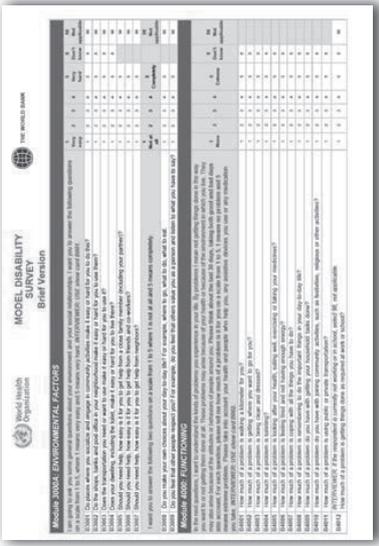
- 日進月歩の基礎医学・臨床医学・公衆衛生の分野における新しい知見を導入 → 医学の専門家(臨床家)を中心とした検討
- 複数の使用 → 死因統計から発展してきたICDに機能・診断過程を反映させる
- 疾病・死 → エクストラ
- 伝統医学を → 病的状態の包括的に表現できる (漢方医学)
- 電子環境での注目を前提としたシステム → ウェブサ → 細分化出来過ぎる 等の開発 等
- 病名コードが → 重複障害をどう表現するか? 系へと進化
- 分類項目にかかる説明、病名(索引用語)を追加 (将来的には内容:症状所見的/解剖学的/組織病理学的/遺伝学的etc.)

<p style="text-align: center;">ICFコンセプトに基づく 生活機能評価システムの作成と検証 - ICD11 V章の臨床活用に向けた取り組み</p> <p style="text-align: center;">向野 雅彦 藤田医科大学医学部 リハビリテーションシヨイン医学講座 生活機能分類普及推進検討ワーキンググループ 座長</p>	<p style="text-align: center;">生活機能分類普及推進検討ワーキンググループ</p> <ul style="list-style-type: none"> - 平成31年度（令和元年度）より厚生労働省社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会の下に設置された、ICFの普及推進を担うワーキンググループ - 主に以下の検討事項を審議する (1) ICD-11「第V章」の国内適用にかかる検討 <ul style="list-style-type: none"> a. ICD-11 第V章の国内適用に向けた指針案の作成 b. 国内でのファイルドテスト実施に必要な資料案の作成 c. 既存の研究と連携した ICF リコードの実践 (2) WHO が公表する ICF 関係資料の翻訳案作成 <ul style="list-style-type: none"> a. ICD-11 第 V 章の仮訳案作成 b. ICD-11 総論(Instruction Manual)第 V 章関連部分の仮訳案及び参考資料案の作成 (3) 普及教育のための参考資料作成
<p style="text-align: center;">生活機能分類普及推進検討ワーキンググループの 主な取り組み</p> <p>臨床ツールの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> - ICF、ICD-11 V章の臨床普及のための臨床ツール作成と ファイルドテストの実施 <p>リコードの仕組みの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> - 既存のスケールを利用した情報収集の仕組み構築 <p>教育ツールの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> - WHO協力センター作成のICF eラーニングツールの翻訳 (協力：診療情報管理学会) - 教育体制の整理と普及のためのツール作成 <p>分類更新、翻訳の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> - ICFの分類の更新の議論、ICF関係資料の翻訳対応 	<p style="text-align: center;">Topics</p> <p style="text-align: center;">ICD-11 V章とは</p> <p style="text-align: center;">ICF、ICD-11 V章の臨床ツール作成</p> <p style="text-align: center;">ICF、ICD-11 V章の教育ツール作成</p> <p style="text-align: center;">ファイルドテストの実施へ</p>

MDS モデル障害調査

(Model disability survey)

- WHOと世界銀行により開発された、障害データ収集のための質問紙
- 200項目以上の質問から構成されるが、40項目からなる短縮版も用意されている
- そのうち6項目のみがICD-11 V章に含まれる



Generic functioning domains

ICFの主要な領域をカバーするように採用された項目群

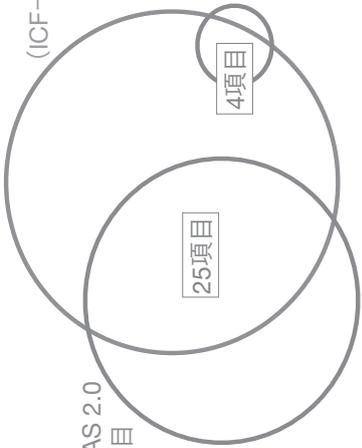
- 情報収集の方法は明記なし (項目はICF準拠)
- ICF一般セット (30項目)のうち29項目を含む



ICD-11 V章の構成

Generic functioning domains
49項目

(ICF一般セット(30項目版)のうち
29項目を含む)



Topics

ICD-11 V章とは

- ICF、ICD-11 V章の臨床ツール作成
- ICF、ICD-11 V章の教育ツール作成

ファイルドテストの実施

ICF一般セット (30項目版)

ICF一般セット (30項目版)

- b130 活力と欲動の機能
- b134 聴覚機能
- b152 情動機能
- b280 痛みの感覚
- b455 運動耐容能
- b620 非聴覚機能
- b640 性別機能
- b720 認知の機能
- d230 自覚の遂行
- d240 ストレスとその他の心理的要求への
- d410 基本的な姿勢の変換
- d415 姿勢の保持
- d420 移動
- d450 歩行
- d455 移動
- d455 用具を用いた移動
- d470 交通機関や手段の利用
- d510 自分の体を動かすこと
- d520 排便
- d530 生殖器の手入れ
- d540 性交
- d550 食べること
- d570 健康に注意すること
- d640 理解以外の思考
- d660 他者への援助
- d710 基本的な対人関係
- d770 親密な関係
- d850 職務を伴う仕事
- d920 レクリエーションとレジャー

Toward the International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) Rehabilitation Set: A Minimal Generic Set of Domains for Rehabilitation as a Health Strategy
 Brigit Podinger, PhD, MEd, Alvaro Castejón, PhD, MEd, Cornelia Dierhauer, PhD, Janine Böhmer, PhD, MEd, Verik Bedilhan Ustin, MD, Semra Ceylan, MD, Gerald Sauer, MD

Item	ICF-16	ICF-26	ICF-36
1. Vitality and motivation			
2. Hearing			
3. Emotion			
4. Pain			
5. Physical fitness			
6. Non-hearing			
7. Gender			
8. Cognition			
9. Self-awareness			
10. Stress and other psychological demands			
11. Basic posture change			
12. Posture maintenance			
13. Movement			
14. Walking			
15. Movement			
16. Movement with aids			
17. Use of transport and means			
18. Moving one's body			
19. Bowel			
20. Genital hygiene			
21. Eating			
22. Health care			
23. Thinking beyond understanding			
24. Assistance to others			
25. Basic interpersonal relationships			
26. Intimate relationships			
27. Work with duties			
28. Recreation and leisure			

ICF一般セット (30項目版) は、
 ・ 回帰分析により抽出した項目
 +

・ 専門家会議で抽出した、様々な疾患のコアセットに共通する項目

ICFの”評価点”

0点	問題なし	(0-4%)
1点	軽度の問題	(5-24%)
2点	中等度の問題	(25-49%)
3点	重度の問題	(50-95%)
4点	完全な問題	(96-100%)
8点	詳細不明	
9点	非該当	

- 様々な取り組みが存在するが、国際的なコンセンサスの形成なし
- 信頼性の検討も一部のみしか行われていない

ICF一般セット(30項目版)のための臨床ツールの作成

簡潔で直感的な説明文の作成

- ICFの定義はわかりにくい
 例：活力と欲動の機能・・・個別的なニーズと全体的な目標を首尾一貫して達成させるような、生理的および心理的機序としての全般的的精神機能
- 2016年に日本版を作成

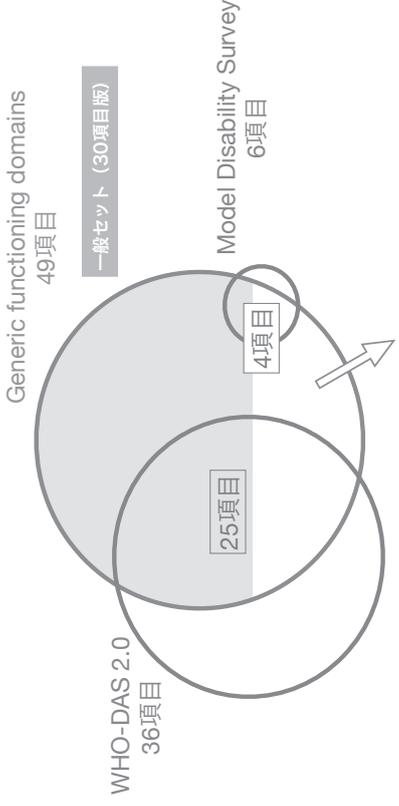
採点用リファレンスガイドの作成と検証

- Swiss Paraplegic ResearchのICFユニットと共同で、ICFの評点ガイドラインに基づいて採点した複数の採点者の認知インタビューに基づき採点の例示を作成
- 作成したリファレンスガイドの検証を実施

簡潔で直感的な説明文の作成

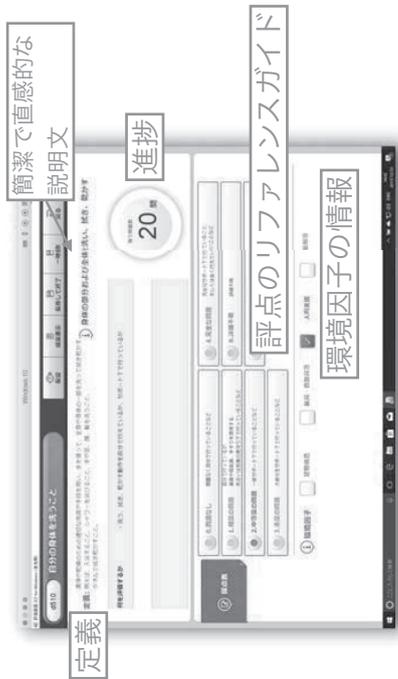
- わかりにくいICFの定義に、臨床家にわかりやすい説明文をつけるプロジェクト
- 国際リハビリテーション医学会 (ISPRM)、ヨーロッパ医療専門家連合 (UEMS) を中心に進められている (これまでに7カ国、現在3カ国でプロセスが進行中)



<p>ICD-11 V章への拡張</p>  <p>追加のツールを作成中</p>	<p>ICD-11 V章の臨床ツール作成：今後の予定</p> <p>2019年度 Generic functioning domainsの全項目に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> - 簡潔で直感的な説明文の作成（1月8日にコンセンサスミーティング実施） - 採点リファレンスガイドの作成（今年度中に実施予定） <p>2020年度 フィールドテストの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> - WHO-DAS 2.0, MDS および Generic functioning domainsの全項目の評価のトライアルを実施 - 全国調査へ
<p>Topics</p> <p>ICD-11 V章とは</p> <p>ICF、ICD-11 V章の臨床ツール作成</p> <p>ICF、ICD-11 V章の教育ツール作成</p> <p>フィールドテストの実施へ</p>	<p>ICFの基礎的な知識に関する eラーニングツール</p>  <p>診療情報管理学会と共同で翻訳予定</p>

データ収集の仕組み

- 初心者用採点アプリケーションの作成 -



ICD-11 V章に拡張予定

Topics

ICD-11 V章とは

ICF、ICD-11 V章の臨床ツール作成

ICF、ICD-11 V章の教育ツール作成

フィールドテストの実施へ

練習課題の作成とeラーニングツール

eラーニングツール

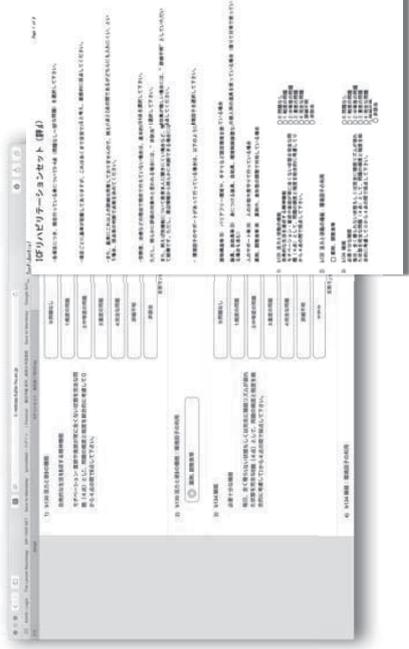


- 具体例（仮定の症例）を作成し、46名の臨床家が採点

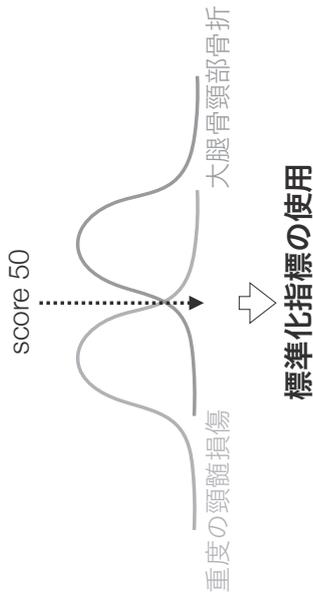
- 2/3が合意した具体例を問題として収録

オンラインデータベースの作成

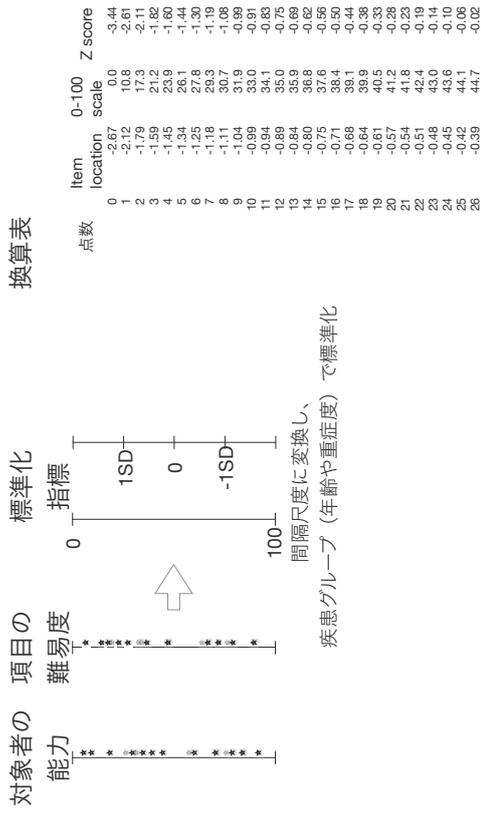
ICF一般セット（30項目版）のデータベース



統計への利用



Rasch分析による標準化指標への変換



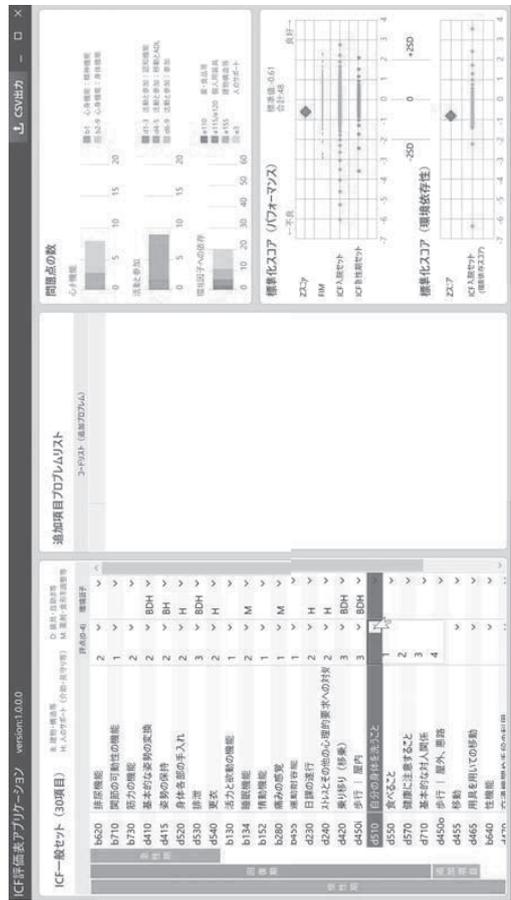
臨床での普及に向けた準備

採点用アプリケーション e-ラーニングツール オンラインデータベース

用例会およびテスト

ファイルドテスト

臨床用アプリケーション



ICF

2001年5月、WHO総会において採択



健康状況と健康関連状況を記述するための、統一的で標準的な言語と概念的枠組みを提供する

ICFのアップデートと今後の展望

- WHO-FIC動向と日本での活用に向けて

杏林大学医学部
リハビリテーション学教室
山田 深

WHO Family of International Classifications : WHO国際統計分類

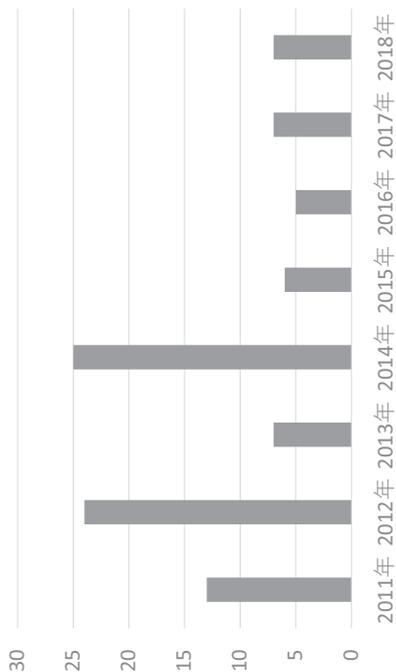


<http://www.who-ipc-japan.jp/>

These updates are approved annually at the October meeting of the WHO Family of International Classifications (WHO-FIC) Network.

- [ICF Updates for 2011](#)
[pdf_124kb](#)
 - [ICF Updates for 2012](#)
[pdf_141kb](#)
 - [ICF Updates for 2013](#)
[pdf_379kb](#)
 - [ICF Updates for 2014](#)
[pdf_176kb](#)
 - [ICF Updates for 2015](#)
[pdf_484kb](#)
 - [ICF Updates for 2016](#)
[pdf_148kb](#)
 - [ICF Updates for 2017](#)
[pdf_496kb](#)
 - [ICF Updates for 2018](#)
[pdf_400kb](#)
- origin.who.int/classifications/icfupdates/en/
- List of Official ICF Updates**
: 公式アップデートのリスト

公式アップグレード数の年次推移



公式アップグレードの例

d450 歩行

常に片方の足が地面に付いた状態で、一歩一歩、足を動かすこと。例えば、散歩、ぶらぶら歩き、前後左右への歩行。含まれるもの：短距離あるいは長距離の歩行、さまざまな地面、あるいは床面上の歩行、障害物を避けての歩行。

d 455 移動

歩行以外の方法によって、ある場所から別の場所へと身体全体を移動させること。例えば、岩を登る、通りを駆ける、スキップする、疾走する、跳ぶ、とんぼ返りする、障害物の周囲を走り回る。

含まれるもの：這うこと、登り下りすること、走ること、ジョギングすること、跳ぶこと、水泳。

公式アップグレードの例

d450 歩行

d451 階段の上り下り

昇降階段や縁石など、片方の足が常に地面に着くよう上下に移動すること。

除かれるもの：歩行(d450); 登り降りすること(d4551)

d455 移動

公式アップグレードの例

d530 排泄

排泄（生理、排尿、排便）を計画し、遂行するとともに、その後清潔にすること。

含まれるもの：排尿や排便の管理、生理のケア

除かれるもの：自分の身体を洗うこと(d510)、身体各部の手入れ(d520)、歩行(d450)、自宅内の移動(d4600)、更衣

ICF Update Platform

Home [ICF](#) | [Search/Filter/Report](#) | [All Groups](#)

User logged in [User Profile](#) | [Documents](#)
:syamada2

News

ICF Update platform is available
ICF Update platform has started collecting update proposals for ICF. Users of the ICD Update and Revision can use their existing account to access the new system.

Items in your selected domains

- U** 304 Change the code for d138
- U** 316 Correction of alignment of function with loss of function and improvement of the parent-child relationship in b410
- U** 317 Correction of alignment of function with impairment or loss of function in b110, improvement of the parent-child relationship, and addition of fully specified names at all hierarchical levels
- U** 318 Uniform titles in body functions and correction of alignment of function with its opposite in b126 and addition of fully specified names at all hierarchical levels
- U** 321 Specific work-related environmental factors
- U** 326 Fully comprehensive code descriptions in e310 and secondary codes affected
- U** 327 Fully comprehensive code descriptions in e325, e330, e345, e350
- U** 329 Fully comprehensive description in d7 title, d720 and d729 and addition of one exclusion
- U** 330 To improve description and add exclusions in d760

0

- 提案
- プラットフォームの一般ユーザー

1

- 最初のレビューグループ
- IRG (Initial Review Group) のメンバーによるレビュー

d 455 **Moving around** 移動

歩行以外の方法によって、ある場所から別の場所へと身体全体を移動させること。例えば、岩を登る、通りを駆けける、スキップする、疾走する、跳ぶ、とんぼ返りする、障害物の周囲を走り回る。

含まれるもの：這うこと、登り下りすること、走ること、ジョギングすること、跳ぶこと、水泳。

Proposal A: [d4555 Scouting](#)

Proposal B: [d4555 Bottom shuffling](#)

2

- 生活機能分類グループ層
- FDRGメンバーによるレビュー

04-Apr-2019 16:53 CET by Ann-Helene Almborg Comments FDRG midyear meeting 2019

Comments on behalf of Dana Krejcova, Kristyna Matuskova, Shin YAMADA and Ann-Helene Almborg from the 2019 FDRG Mid-Year meeting in Kuwait on Proposal ID 410 Addition of a third-level codes under d455

The group has discussed the proposal to add the subcategory d4555, the two different terms and the definition. We recommended to use proposal B as this is clearer and more useful than proposal A.

The FDRG group recommends the proposal to be accepted by using Proposal B

0

- 提案
- プラットフォームの一般ユーザー

1

- 最初のレビューグループ
- IRG (Initial Review Group) のメンバーによるレビュー

d 455 **Moving around** 移動

歩行以外の方法によって、ある場所から別の場所へと身体全体を移動させること。例えば、岩を登る、通りを駆けける、スキップする、疾走する、跳ぶ、とんぼ返りする、障害物の周囲を走り回る。

含まれるもの：這うこと、登り下りすること、走ること、ジョギングすること、跳ぶこと、水泳。

Proposal A: [d4555 Scouting](#)

Proposal B: [d4555 Bottom shuffling](#)

4

- 公開討論層
- CSAC (投票メンバー) からのコメント

Year/Round	Status	Results																					
2019- 2	Voting process has been closed for this round. End Date :08/09/2019	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">Yes</th> <th style="text-align: left;">No</th> <th style="text-align: left;">Can't Decide</th> <th style="text-align: left;">Assent (no vote)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> </tbody> </table>	Yes	No	Can't Decide	Assent (no vote)	2	1	7	20													
Yes	No	Can't Decide	Assent (no vote)																				
2	1	7	20																				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">Voter</th> <th style="text-align: left;">Vote</th> <th style="text-align: left;">Comment</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Korean Collaborating Center (Republic of Korea)</td> <td style="text-align: center;">Yes</td> <td>We support proposal B.</td> </tr> <tr> <td>Keisuke TAKAHASHI ()</td> <td style="text-align: center;">Yes</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Ulrike Trinke (Germany)</td> <td style="text-align: center;">No</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Ann-Helene Almborg (Sweden)</td> <td style="text-align: center;">Can't Decide</td> <td>We propose to integrate both concepts from ICF-CY by adapting the content slightly. d4555 Rolling: Propelling the whole body from one place to another in a LYING position without rising from the floor. D4556 Bottom shuffling: Propelling the whole body from one place to another in a SITTING position without rising from the floor. We don't see an overlap with the concept. d4107 rolling over, as this concept has the goal to change a lying position, and not to move around to another place. The comment by Germany needs to be discussed</td> </tr> <tr> <td>Carlos Guevel (Argentina)</td> <td style="text-align: center;">Can't Decide</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Catherine Sykes (United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)</td> <td style="text-align: center;">Can't Decide</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	Voter	Vote	Comment	Korean Collaborating Center (Republic of Korea)	Yes	We support proposal B.	Keisuke TAKAHASHI ()	Yes		Ulrike Trinke (Germany)	No		Ann-Helene Almborg (Sweden)	Can't Decide	We propose to integrate both concepts from ICF-CY by adapting the content slightly. d4555 Rolling: Propelling the whole body from one place to another in a LYING position without rising from the floor. D4556 Bottom shuffling: Propelling the whole body from one place to another in a SITTING position without rising from the floor. We don't see an overlap with the concept. d4107 rolling over, as this concept has the goal to change a lying position, and not to move around to another place. The comment by Germany needs to be discussed	Carlos Guevel (Argentina)	Can't Decide		Catherine Sykes (United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)	Can't Decide		
Voter	Vote	Comment																					
Korean Collaborating Center (Republic of Korea)	Yes	We support proposal B.																					
Keisuke TAKAHASHI ()	Yes																						
Ulrike Trinke (Germany)	No																						
Ann-Helene Almborg (Sweden)	Can't Decide	We propose to integrate both concepts from ICF-CY by adapting the content slightly. d4555 Rolling: Propelling the whole body from one place to another in a LYING position without rising from the floor. D4556 Bottom shuffling: Propelling the whole body from one place to another in a SITTING position without rising from the floor. We don't see an overlap with the concept. d4107 rolling over, as this concept has the goal to change a lying position, and not to move around to another place. The comment by Germany needs to be discussed																					
Carlos Guevel (Argentina)	Can't Decide																						
Catherine Sykes (United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)	Can't Decide																						



2019年アップデート

- 新しいアップデート提案 39件
- 既存のアップデート提案 32件



- 5提案が2nd roundで賛成多数で採択、2提案が2nd roundで否決され、7提案が修正の上で採択。
- 6提案についてKuwait Midyear Meetingでのグループディスカッションからの修正案を提示され、すべて一部修正の上、採択。

アップデート 近年の流れ

- ICF-CY
ICF-CYを統合するための調整
(2019年新規アップデートのうち24件)
- 動名詞
play→playing
- Impairmentの削除
含まれるもの、除かれるものに
疾患名を例示しない
(ICFは生活機能の評価である)

MERGING ICF-CY INTO ICF ICF-CYをICFに統合する (2012)

- In the interest of a streamlined, comprehensive ICF which adequately addresses all aspects of functioning across the lifespan, the relevant stakeholders have agreed to merge the two classifications back into one while completing other updates and revisions.
- 生涯にわたる生活機能のすべての側面に対して適切に対応するICFを、一連の流れに沿って包括的なものとするために、2つの分類を1つにまとめ、他の更新と改訂を完了することに合意 (仮訳)。

<https://www.who.int/classifications/icf/whoficresolution2012icficy.pdf?ua=1>

WHO Family of International Classifications : WHO国際統計分類



(出展：WHOウェブサイトより、国際分類情報管理室で翻訳)

<http://www.who-ipc-japan.jp/> (一部修正)

ICF-CYとの統合と動名詞

d920 Recreation and leisure

Engaging in any form of play, recreational or leisure activity/pursuit, such as informal or organized play and sports, programmes of physical fitness, relaxation, amusement or diversion, going to art galleries, museums, cinemas or theatres; engaging in crafts or hobbies, reading or singing for enjoyment, playing musical instruments; sightseeing, tourism and travelling for pleasure.

d9200 Playing

Engaging in games with rules or unstructured or unorganized games and spontaneous recreation, such as playing chess or cards or children's play.

Inclusions: engaging in solitary play, onlooker play, parallel play and shared cooperative play

Impairmentの削除

b410 Heart functions

Functions of pumping the blood in adequate or required amounts and pressure throughout the body.

Remark: impairments of these body functions are present in health conditions such as heart failure, cardiomyopathy, myocarditis, and coronary insufficiency and in other conditions that manifest in tachycardia, bradycardia, irregular heartbeat, arrhythmias

Inclusions: functions involved in the heart rate, the heart rhythm, the contraction force of ventricular muscles, and in supplying blood to the heart muscle of heart rate, rhythm and output; contraction force of ventricular muscles; functions of heart valves; pumping the blood through the pulmonary circuit; dynamics of circulation to the heart; impairments such as tachycardia, bradycardia and irregular heart-beat and as in heart failure, cardiomyopathy, myocarditis, and coronary insufficiency

Exclusions: blood vessel functions (b415); blood pressure functions (b420); exercise tolerance functions (b455)

d920 Recreation and leisure

Engaging in any form of play, recreational or leisure activity/pursuit, such as informal or organized play and sports, programmes of physical fitness, relaxation, amusement or diversion, going to art galleries, museums, cinemas or theatres; engaging in crafts or hobbies, reading or singing for enjoyment, playing musical instruments; sightseeing, tourism and travelling for pleasure.

- レジャーにplayingを含めることについて、playingは発達過程で必要な行為であり、レジャーではないとの強い指摘あり。
- Singingがコミュニケーション手段でもあるとの意見。

Impairmentの削除

b410 心機能 (仮訳)

適切あるいは必要とする血液量と血圧で、全身に血液を供給する

注: これらの心身機能の障害は心不全、心筋症、心筋炎、冠不全などの健康状態にある時や、頻脈、徐脈、不整脈がみられる状態にある場合にみられる。

含まれるもの: 心拍数、心調律 (リズム)、心室筋の収縮力、心臓への循環状態。

状態、徐脈、不整脈、心臓弁の機能、肺循環へ血液を供給する機能、心臓への循環動態。

除かれるもの: 血管の機能 (b415); 血圧の機能 (b420); 運動耐容能 (b455)

ICD-11 V章の日本語化

<https://icd.who.int/browse11/l-m/en>

ICD-11 V章 (仮訳案)

MASS項目名 / 章分類の別	ICD-11 コード	原文用語名	日本語訳	付随ICFコード	WHO-DAS2.0
章	V	Supplementary section for functioning assessment	生活機能評価のための機能セクション		
項目	V01.0	WHO-DAS 2.0 36-item version	WHO-DAS 2.0 (36項目版)		
項目	V01.1	Cognition	認知		Domain 1. Cognitive/認知
項目	V01.2	Attention functions	注意機能	b140	
項目	V01.3	Memory functions	記憶機能	b144	
項目	V01.4	Solving problems	問題解決	d175	
項目	V01.5	Basic learning	基礎的学習	d130-d139	
項目	V01.6	Communicating with - receiving - spoken messages	口頭言葉の理解	d010	
項目	V01.7	Conversation	対話	d050	
項目	V01.8	Mobility	運動・移動	d4	Domain 2. Mobility/可動性
項目	V01.9	Maintaining a standing position	立ちの維持	d4154	
項目	V02.0	Changing body position - standing	姿勢の転換・立つこと	d4104	
項目	V02.1	Moving around within the home	自宅内の移動	d4600	
項目	V02.2	Moving around outside the home and other buildings	屋外の移動	d4602	
項目	V02.3	Walking	歩行	d450	
項目	V02.4	Self-care WHODAS	セルフケア (WHODAS)	d5	Domain 3. Self-care/セルフケア
項目	V02.5	Washing oneself	自分の身体を洗うこと	d510	
項目	V02.6	Dressing	更衣	d540	
項目	V02.7	Eating	食へること	d590	
項目	V02.8	Carrying out daily routine	日課の実行	d230	
項目	V02.9	Getting along	他者との交流		Domain 4. Getting along/他者との交流

第19回社会保険医療統計分科会生活機能評価専門委員会

仮訳案の例

- VA56 Health problems causing family problems
家族の問題が引き起こす健康問題
家族の問題を引き起こす健康問題
- VA53 Time spent on health condition
健康問題に時間をかける
健康問題に費やした時間

ICF改正と改訂へ向けた動き

1) ICF 2020

アップデータの提案を統合、優先付
オンライン投票システムの整備を加速

2) 児童用WHODAS

文献レビュー、定義作成
試用版の開発

3) WHODAS

トレーニング教材の開発
採点ツールの開発



2020

World Health Organization –
Family of International
Classifications (WHO-FIC) Network
Annual Meeting Seoul, South
Korea 22-27 October 2018
Executive Summary より抜粋、
仮訳

ICFコンセプトを活用した 既存情報整理の考え方と実際

ーICF-WG・リコード班の活動報告を中心に

国立保健医療科学院

医療・福祉サービス研究部

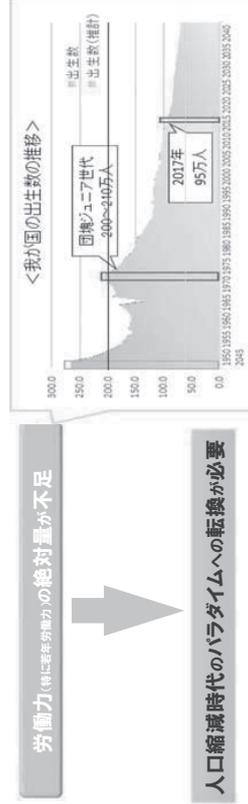
大多賀政昭



お話しする内容

1. 社会の変化とヘルスケアシステム
2. ICFとはなにか
3. 医療・介護の継続的な支援とICF
4. ICF-WG・リコード班の活動
5. 今後にもむけてーさらなるICFの活用

人口縮減時代に求められる視点～自治体戦略2040構想より～



労働力(特に若年労働力)の絶対量が不足

人口縮減時代のパラダイムへの転換が必要

スマート自治体への転換

- AI・ロボティクスの活用による業務省力化
- 標準化された共通基盤を用いた効率的なサービス提供体制

公私によるくらしの維持

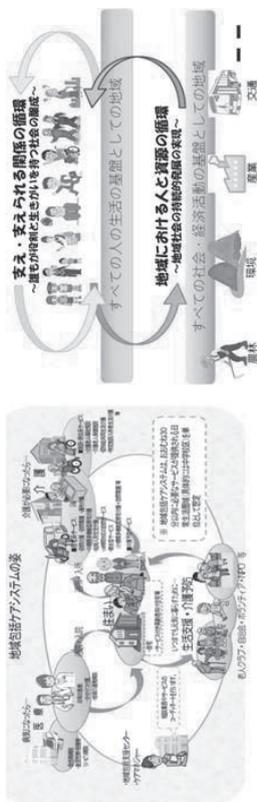
- 新しい公私相互間の協力関係を構築する「プラットフォーム」が必要
- ソーシャルワーカーなど技能を習得したスタッフが随時対応する組織的な仲介機能が求められる。
- 定年退職者や就職氷河期世代の活躍の場を求める人が、人々のくらしを支えるために働ける新たな仕組み

総務省(2018)、「自治体戦略2040構想研究会 第一次・第二次報告の概要～人口減少下において満足度の高い人生と人間を構築する社会をどう構築するか～」

地域包括ケアシステムの深化とICF

住まい・医療・介護・予防・生活支援が
住み慣れた地域で一体的に提供される
地域包括ケアシステム

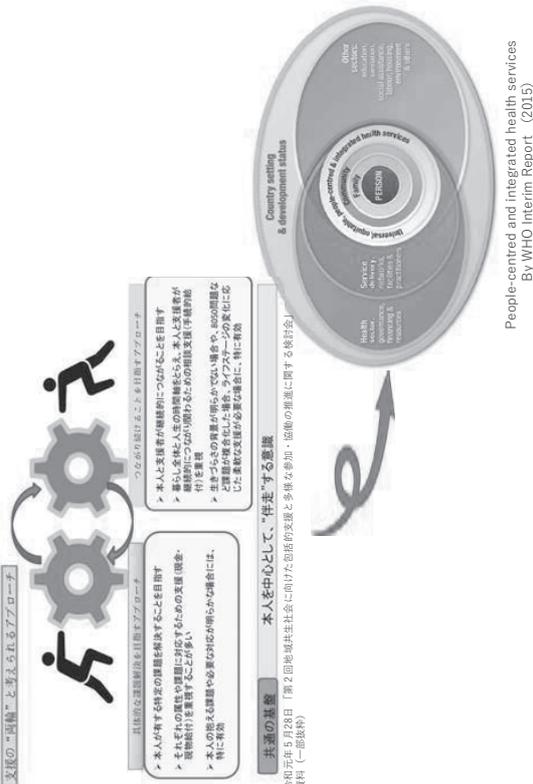
地域住民や地域の多様な主体によって、
住民一人ひとりの暮らしと生きがい、
を創っていく地域共生社会



いずれも、地域住民を中心をしながらも、関係者によるケア
(サービス)をつないでいくことが求められている。
共通基盤情報としてのICFが今後より重要となると考えられる。³

2. ICFとはなにか

高齢化が進む諸国において求められる本人を中心とした 伴走的な支援



ICFとは何か？

- 「ICFは、ある健康状態にある人に関連するさまざまな
異なる領域（例：ある病気や障害等がある人が実際に
にしていること、またできること）を系統的に分類す
るものである。」
- 「ICFは障害のある人だけにに関するものと誤解が広
まっているが、ICFは全ての人にに関する分類であ
る。」
- 「ICFは健康状況と健康関連状況を分類する。した
がって分類の単位は、健康領域と健康関連領域におけ
る各種のカテゴリである。ICFは人間を分類として
いないことに留意することが大切である。」

ICFとICDの違いとは？

- ICDとICFにある重複を認識しておくことも大切である。
- 機能障害（構造障害を含む）は、身体の構造と機能に関するものであり、この構造機能はふつう「疾病過程」の一部をなし、ICDにも使われている。
- 一方、ICFの体系では、機能障害は健康状態に関連した心身機能の問題そのものとして用いられている。
- 同じ疾患をもつ2人の人が、異なった生活機能の水準にあることがありうるし、逆に同じ生活機能レベルにある2人の人が必ずしも同じ健康状態にあるとは限らない。

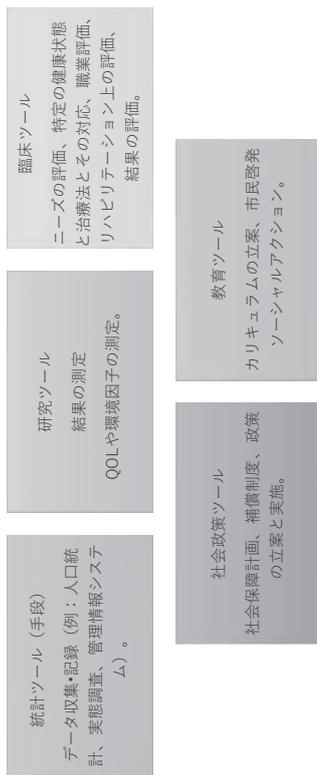
ICFとICDを組み合わせて使用することによってデータの質が向上する。

V章生活機能評価に関する補助セクションの活用が重要になる

世界保健機関、『ICF国際生活機能分類-国際障害分類改訂版-』、p.3.4

ICFは何に使えるのか？

- ICFは、1980年のICFの前の概念であるICIDHの時代から、さまざまに用途に使用されてきた。



世界保健機関、『ICF国際生活機能分類-国際障害分類改訂版-』、p.6.10

3. 医療・介護の継続的な支援とICF

医療機関の機能分化と継続的な支援

- ◆機能分化時代における退院のプロセスを考える
患者を退院させる場または長期的ケア部門に移行させることは、様々な部門やシステムが関わるプロセスである。



入退院支援をマネジメントする = 地域包括ケアを実現する

地域包括ケアにおける重要な部分は、患者が一つの医療機関から別の機関へ移行する際に連続的な経路を確保することである。退院マネジメントは、まさにそれを実現しようとするもの。



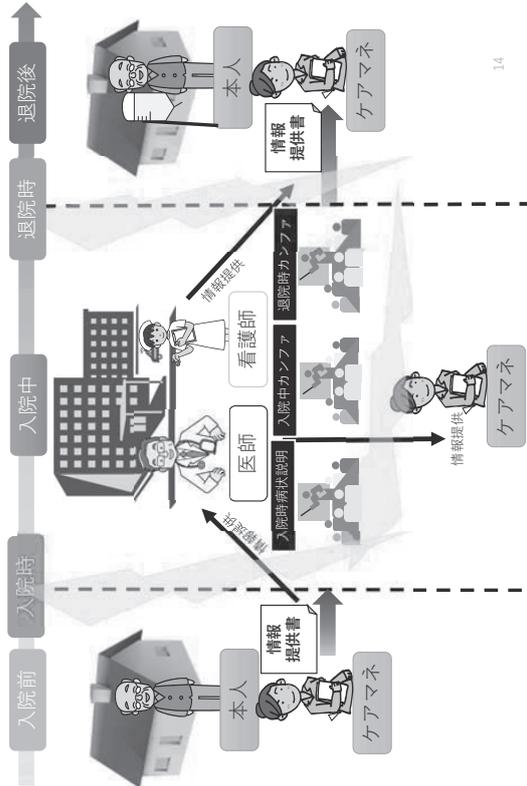
効果的な入退院支援を実現するには

- 収容能力の計画、パフォーマンスの検証、病院の退院方針、ヘルスケア提供者・利害関係者の合意が必要となる。
- 標準化された方針に沿った方針は、効果的な退院計画の導入のために重要であるという点については、明確なエビデンスとヘルスケア提供者・利害関係者との間で幅広い合意が得られる必要がある。

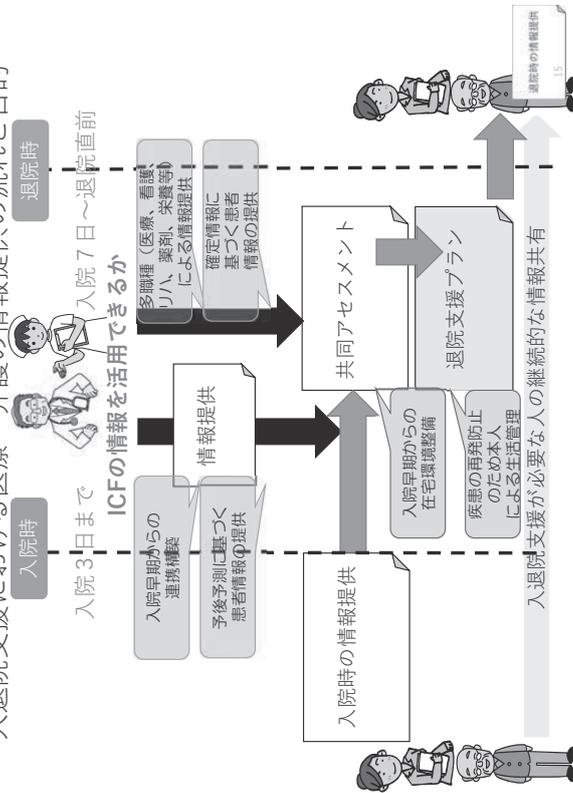
(Wong et al. 2011, p.9)

⇒標準化された方針・情報が必要！
ICD、ICFの両情報の活用が重要に

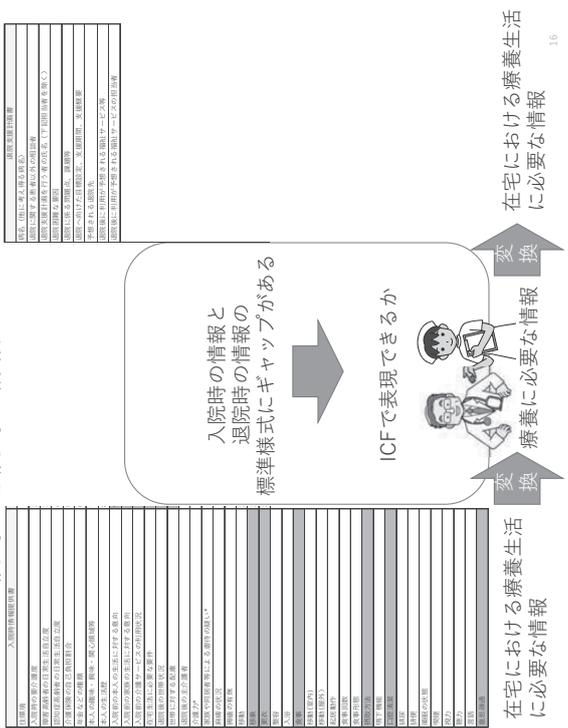
医療・介護連携の促進に向けた情報共有における課題



入退院支援における医療・介護の情報提供の流れと目的



入院時・退院時の情報におけるギャップ



4. ICF-WG・リコード班の活動

既存情報を基本ルールを定めてリコード（変換）することで、ICF項目に置き換え、ICFコンセプトを表現していく考え方を整理すること、さまざまな方法をとりあげ紹介していくことを目的とする。

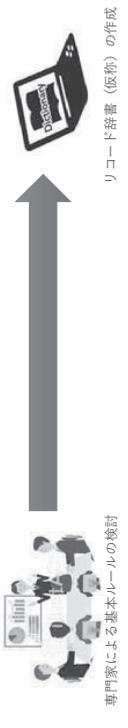
研究レベルにおいて、リコードは様々な方法（あるいは同一の方法でも数値の重みづけが異なる）が考えられるが、WG委員の知見の集約を通して、あるいは、全国レベルのファイナルテストを行うなどして、具体例を示すことを目指す。

・ICFコンセプトを用いた既存情報のリコード（第2レベルまで）：項目対応

- ここでの目的は二つある。①もともとの情報が、ICFコンセプトからみて、どのように表現できるか、必要十分かを確認するツールとして使う、②ICFに変換することで、ICFコンセプトで表現し、ICFが表現する意味を持たせるとともに、共有情報基盤として把握しやすくする。

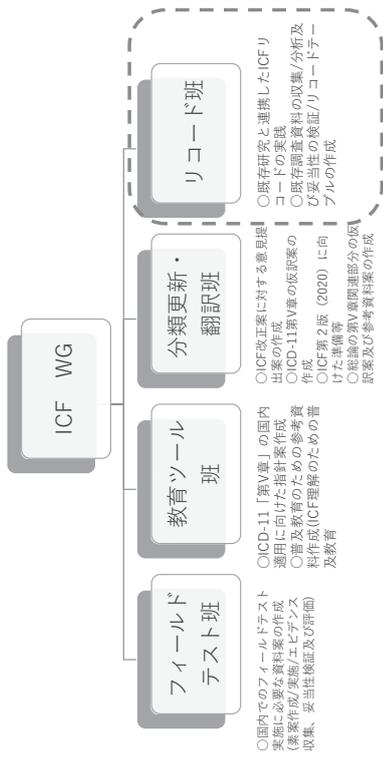
・既存アセスメント情報のICF項目を使った評価情報への変換：点数化

- ICF項目に0～4の点数を付すことで、項目ごとの詳細な障害程度情報を付加することができるが、評価対象者の状況をより詳細に把握することができる。また、既存アセスメント情報をもつ評点をICF項目を使った評価情報への変換することで、ICFコンセプトを数量的に可視化することができる。



ICF WGについて

ICF WG（社会保障審議会 統計分科会生活機能分類専門委員会生活機能分類普及推進検討ワーキンググループ）は、2018年6月にICD-11が公表され、新たに、第V章生活機能評価に関する補助セクションが設けられたことをうけ、専門的見地を兼ね備えた実務者レベルでの現場に即した具体的対応がこれまで以上に求められることなることを踏まえて設置された。



5. 今後にもむけてーさらなるICFの活用

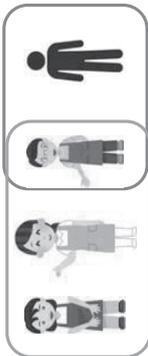
個別レベル

ギャップから
考える研修ツールへの活用



スーパーバイズ

本人と支援者のギャップ



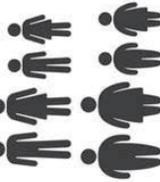
支援者の間ギャップ

個別ケース検討

地域・事業所レベル

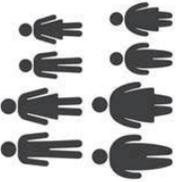
地域・事業所間のギャップを把握し、
サービスの提供見直し、基盤整備へ活用

A地域（事業所の利用者）



ACOT
高↑

B地域（事業所の利用者）



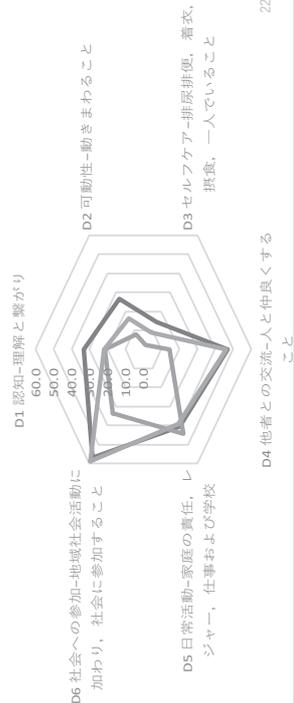
ACOT
低↓

21

WHO-DAS2.0の試行評価まとめ（2018年実施）

WHO-DAS2.0	W市の精神 障害者(N=31)	
	A事業所 (N=7)	B事業所 (N=24)
D1 認知-理解と繋がり	44.9	30.6
D2 可動性-動きまわること	33.1	21.4
D3 セルフケア-排尿排便、着衣、摂食、一人でいること	26.4	8.0
D4 他者との交流-人と仲良くすること	14.3	2.5
D5 日常生活-家庭の責任、レジャー、仕事および学校	47.1	14.7
D6 社会への参加-地域社会活動に加わり、社会に参加すること	40.4	44.2
D7 社会への参加-地域社会活動に加わり、社会に参加すること	56.9	33.8

● A事業所 (N=7) ● B事業所 (N=32) ● W市の精神障害者(持者)所持者(N=31)



D4 他者との交流-人と仲良くすること

22

WHO-DAS2.0の試行評価まとめ（2019年実施）

全体 (N=78)	X (有料) (N=38)	Y (無料) (N=42)	Z (無料) (N=21)	
10分間歩行	1.70	2.17	1.95	1.58
新しいことを学ぶ	2.38	2.63	2.41	2.17
30分間読書の時間	2.60	2.00	2.95	2.42
長い距離(棒ロケット)を歩く	2.67	2.04	3.03	2.42
全身を洗う	1.68	1.83	1.66	1.47
自分で服を着る	1.40	1.63	1.32	1.17
知らない人とやりとり	1.68	2.17	1.42	2.00
友人関係を維持する	1.92	2.28	1.84	2.17
10分間で家事(洗濯)を行う	2.13	1.81	2.15	2.09
1日中の活動(趣味-レジャー-ショッピング)を行う	1.77	1.94	1.66	1.83
地域活動に参加する	1.80	1.67	2.03	1.50
健康状態による感傷への影響	1.77	1.94	1.95	1.47



全体 (N=78)	X (有料) (N=38)	Y (無料) (N=42)	Z (無料) (N=21)	
D1 認知	3.92	4.55	3.79	3.75
D2 可動性	5.00	3.82	5.82	5.00
D3 セルフケア	3.45	3.28	2.90	2.72
D4 他者との交流	3.73	4.21	3.18	3.92
D5 日常生活	3.51	3.63	3.72	3.42
D6 社会への参加	3.39	3.42	3.87	2.67

23

参考：WHO-DAS 2.0とは

- WHODAS 2.0は、WHOが開発した国際生活機能分類(ICF)の包括的構成要素から定量的に健康と障害の測定が行える包括的評価ツール。
- WHODAS 2.0の信頼性、妥当性を裏付けるために、組織的な現地調査が行われ、調査を通じ、一般母集団の健康と障害のレベルの評価、および介入による臨床的な効果を測定するのに役立つことが検証されている。
- 日本でも評価マニュアルがすでに翻訳されている(2014年)。

調査項目 (36項目版)

項目	説明
1. 歩行	10分間歩行
2. 読書	30分間読書の時間
3. 歩行	長い距離(棒ロケット)を歩く
4. 洗身	全身を洗う
5. 着脱	自分で服を着る
6. 交流	知らない人とやりとり
7. 交友	友人関係を維持する
8. 家事	10分間で家事(洗濯)を行う
9. 活動	1日中の活動(趣味-レジャー-ショッピング)を行う
10. 参加	地域活動に参加する
11. 感傷	健康状態による感傷への影響

ICF活動と参加の分類リスト

1. 身体的活動と参加
2. 一般的な活動と参加
3. コミュニケーション
4. 運動・移動
5. セルフケア
6. 日常生活
7. 家庭生活
8. 主要な生活領域
9. コミュニティ・社会生活・市民生活

WHO-DAS 2.0において評価する生活上の9つの領域

- 領域1: 認知-理解と繋がり
- 領域2: 可動性-動きまわること
- 領域3: セルフケア-排尿排便、着衣、摂食、一人で過ごすこと
- 領域4: 他者との交流-人と仲良くすること
- 領域5: 日常生活-家庭の責任、レジャー、仕事、学校
- 領域6: 社会への参加-地域社会活動に加わり、社会への参加

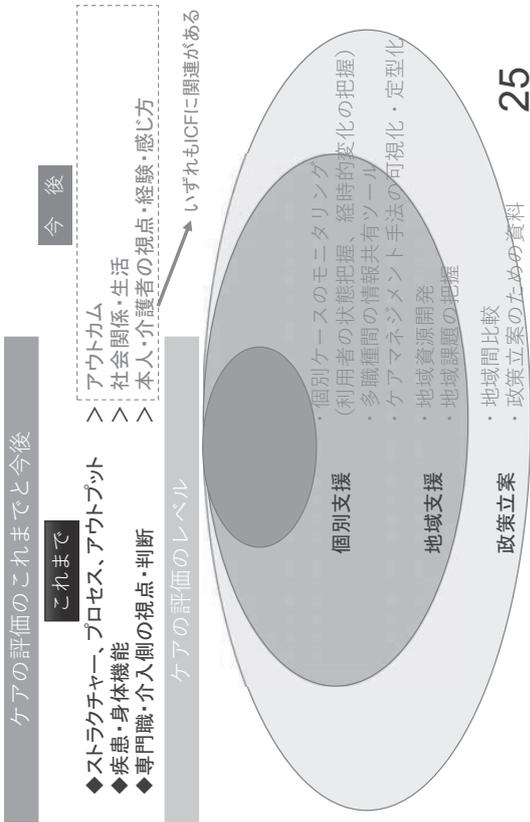
対応している

厚生労働省社会政策総合研究所 社会政策研究センター (資料提供: 社会政策総合研究所)

ICF(国際生活機能分類)の普及を促進するためのツールとしてWHO-DAS2.0の活用可能性に関する研究 (H25-統計一般-003) | 研究発表者: 高井孝子

24

臨床場面におけるケアの評価（アセスメント）情報の活用とICF



25

ヘルスケアサービスの質



客観的情報としてのICFに加えて、主観的情報としてのICFをどのように活用していくかを検討していく必要がある

26

協力（順不同）

日本医学会、公益社団法人 日本医師会、公益社団法人 日本歯科医師会、
一般社団法人 日本内科学会、一般社団法人 日本病院会日本診療情報管理学会、
公益社団法人 日本看護協会、公益社団法人 日本リハビリテーション医学会、
公益社団法人 日本理学療法士協会、一般社団法人 日本作業療法士協会、
一般社団法人 日本言語聴覚士協会、日本脊髄障害医学会、
ソーシャルケアサービス従事者研究協議会、公益財団法人 テクノエイド協会、
公益社団法人 日本医療社会福祉協会、一般社団法人 日本介護支援専門員協会、
公益社団法人 日本介護福祉士会、公益社団法人 日本社会福祉士会、
公益社団法人 日本精神保健福祉士協会、
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟、日本保健医療福祉連携教育学会、
公益社団法人 日本障害者リハビリテーション協会、一般社団法人 日本精神科看護協会、
特定非営利活動法人 日本緩和医療学会、
特定非営利活動法人 日本ソーシャルワーカー協会、一般社団法人 日本在宅医療連合学会、
一般社団法人 日本在宅ケア学会、一般社団法人 日本老年医学会、
公益社団法人 全国老人保健施設協会

厚生労働省

政策統括官付参事官付 国際分類情報管理室
〒100-8916 東京都千代田区霞が関 1-2-2
TEL 03-5253-1111（内線 7493）

シンポジウム事務局（オスカー・ジャパン株式会社内）

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-35-1 ネオ・シティ三鷹
TEL 0422-24-6815 FAX 0422-24-6812